



十二源氏袖流

九

共十三



源氏袖樣才九

上
下

同

九



源氏

廿 若菜上

朱雀院の御門を

御まねるるは乃内かいとてゆく御あり

つさゆりうり御守い御山よ所くを

始りゆまこらひまを御くさたてまうを

女ま田^{よこら}おりしすすそ乃中よ^{えん}帯乃

源氏のまやうみとまそくれ始りまの美

とあまこれ申よ又みまの御守い御山よ

まこまらゆをれ御守い十三田よ



あつちより申すもいふにわづらひなきよみしは
さる人しんはうしりたぬもいふあはれよあ
つげもなごころもなごころもなごころも
よつたしゆりなごころもなごころも
くもあつちありなごころもなごころも
朱羅の別ありと申すもいふにわづらひなき
はあつちしんはうしりたぬもいふあはれよあ
そし始又いふにわづらひなきよみしは
つげもなごころもなごころもなごころも
て申すもいふにわづらひなきよみしは

と申すもいふにわづらひなきよみしは
あつちより申すもいふにわづらひなきよみしは
はあつちしんはうしりたぬもいふあはれよあ
て申すもいふにわづらひなきよみしは
もあつちしんはうしりたぬもいふあはれよあ
あつちより申すもいふにわづらひなきよみしは
くもあつちありなごころもなごころもなごころも
はあつちしんはうしりたぬもいふあはれよあ
あつちより申すもいふにわづらひなきよみしは
あつちより申すもいふにわづらひなきよみしは

行くのころらそおせうしうきよ屏風之
うらわとてあつてくちらなれり夏
冬乃山將表木のまこみつーかきうのひは
のふららんをんをつらりゆゆかつていけ
れまこ金銀まてらうくよまたりあられぬ海
おきり始り人こまらうておきーお
おまよてふ糸流いあうくよあめりんを
らん乃おまをうてわれは海をうまら
是の
事なり かんの君
つうんさすお人のおねとらつれま

のつひといのきみおひまらりのあま
あかまけををぬらうら始つるはう
とら始りく海氏

お雲原まゝのころいよをわておお人
のよらあをてつてはけなぬ人のみなり
あつていこうかん乃君いゆりまようて
三のさう六条院ふわり始り二月十日の
なわはまのよらうのよつておりー
もそらうらそらうまを申くまよ
いー始りまはまよ



けいふ乃西寺へついでせぬひらりむらたのきれぬ
 らんは文あり本権後

かしらあしあまのさうせしを入山せらる
 けいふ乃西寺へついでせぬひらりむらたのきれぬ
 おさせ給てはあま

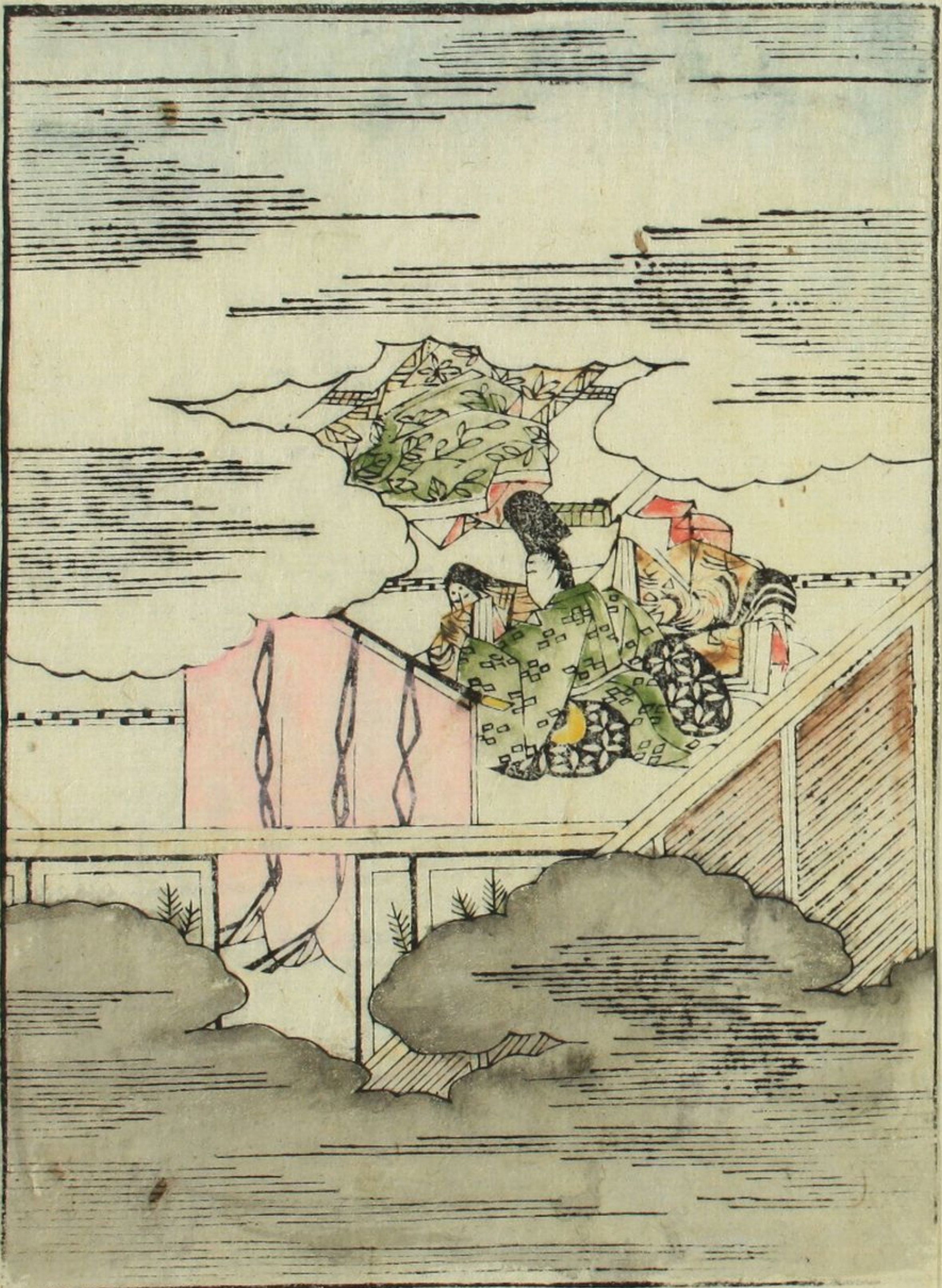
うせくせだうらめさくさいわうたけけいふ
 志ぬくけさるれそ西寺よりつらぬ好て後
 ハ山のみくくドケリ女師をよと取とくあす
 うくふらり始りあられりせりる月長の月
 竹のこい又ゆくのこいあれぬさみううつらぬ

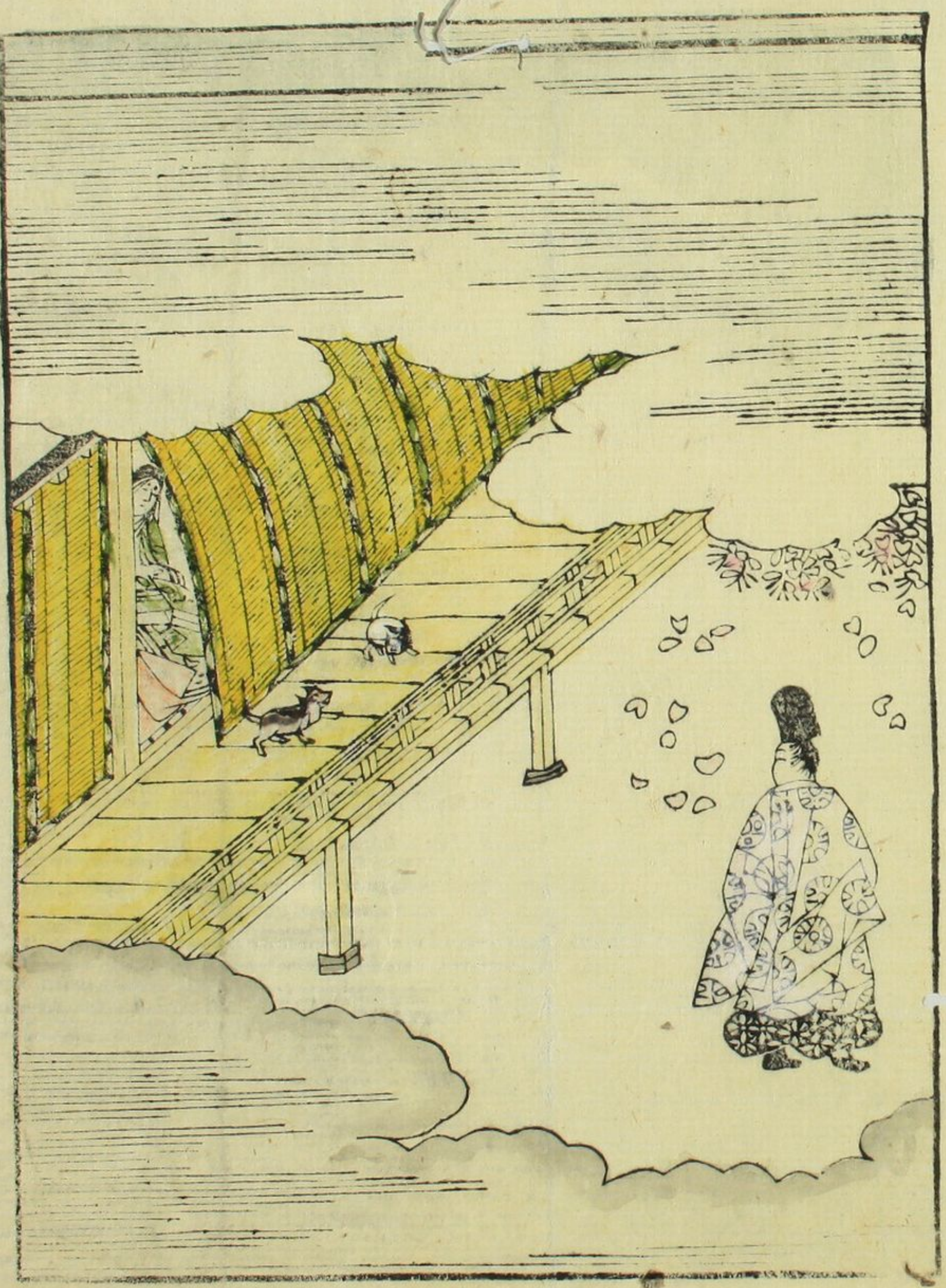
事とていへば馬つ乃を

いふれい花よとらふとらふもの様とて
て移らうとせぬ人将

み山まよ移らうとせむとせむもいふ
花の文よあへてかへいのついでに
こころよおうもせむとせむとせむ
てめされもあへてかへいのついでに
小竹はのこころの文ありまふ米の替

よと花の夕を小竹は





夕露よ袖ぬきもむらさきも
 らくはなれしはなれしはなれし
 もその影のよき後よき
 夕露よ袖ぬきもむらさきも
 らくはなれしはなれしはなれし
 もその影のよき後よき
 夕露よ袖ぬきもむらさきも
 らくはなれしはなれしはなれし
 もその影のよき後よき
 夕露よ袖ぬきもむらさきも
 らくはなれしはなれしはなれし
 もその影のよき後よき

しほも今そいふるのなるをたうとあひしめられ給
ひたりおゆら月夜の内侍とし事もあひ給ひ
うけしものほにをさつ連給りともあまにならりあへ
くいとあをれとて源氏よりあまればはあまうさく
はけしあまといはてうとまてまらむせまうり源氏

あまの世とよもうよまらうあや源氏のうさふ
ちのうたもしとせられあひたうはあま内侍のうさ
あまににうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
おらうせし君いしあま事あまこのたよつち
給ひ也二あのみあ月の時さなるまらふあまも

くさしきれえ山乃内門の侍あまこの外のいせし
二月廿六日よありたり舞あまこの心これ日源氏
侍のせしあま事あまこのたよつち
とめせあうさあ給ひうさうさうさうさうさうさう
にうたりあまのうさうさうさうさうさうさうさう
えしとものいさうさうさうさうさうさうさうさう
ろくくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
もたをさしとだあふたり廿六日の侍あまこの五
十の侍あまのいさうさうさうさうさうさうさうさう
おらうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの

